

全酪連会報 **10**

2019 OCT No.649

若手後継者の本音／
永松克美さん

日本酪農見て歩紀／佐藤牧場(山形県上山市)

酪農トピックス／酪農生産研究会獣医師部会 主催
「平成30年度通常総会及び令和元年度第1回研修会」
を開催！(名古屋)ほか



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/caltop/

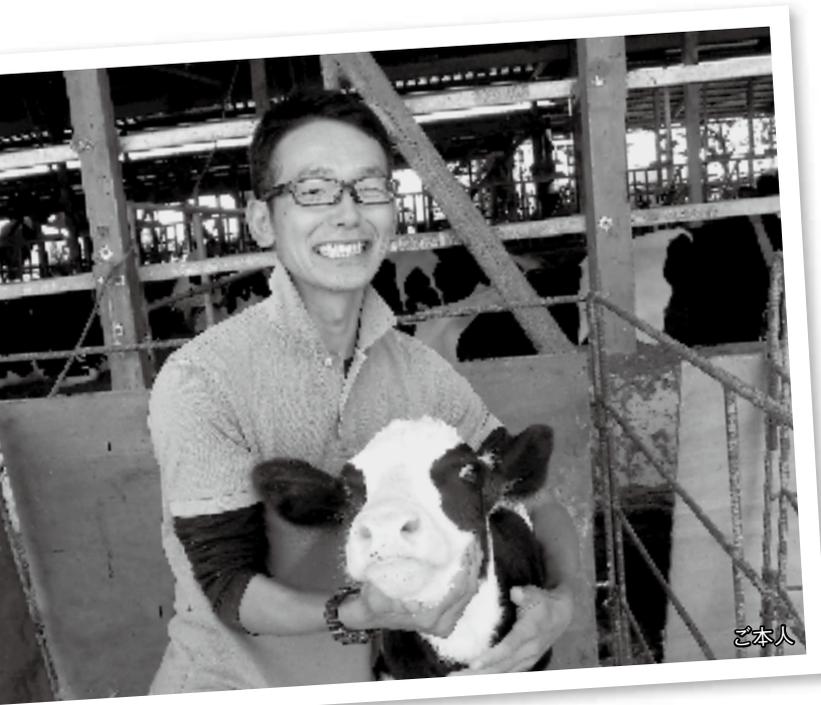


全国酪農業協同組合連合会

ZENRAKUREN

熊本県は西日本有数の酪農地帯で、全国で4番目の生乳生産を誇ります。菊池地区は県北東部に位置し、阿蘇外輪山系を有する山間地や白川地域に広がる大地・平野部という自然豊かな地域です。なかでも菊池地域は8万tの生乳が生産されており、らくのうマザーズ菊池工場をはじめ、近年には菊池地域農業協同組合畜産部泗水育成牧場や全酪連若齢預託熊本牧場が設立されるなど県内でも有数の酪農地帯です。

㈱ながまつファームが所属する菊池地域農業協同組合（三角修代表理事組合長）は、酪農家戸数144戸、年間生乳生産量は82,800t



今回は、熊本県菊池市泗水町 ㈱ながまつファームの後継者 永松 克美さんにお話を伺いました。

就農してから現在までのことを教えてください

就農当時、前職で培った知識があるから、直ぐにある程度の仕事ができるだろうと考えていました。ところが実際に酪農を始めてみると、搾乳や哺乳、トラクターやローダーの運転、現場で発生する様々な問題に対するフォロワーなど、ほとんどの作業を満足にできませんでした。そんな中、父と繋がりがああるヘルパーさんや近

（平成30年度）です。㈱ながまつファームは、フリーストール型牛舎1棟、乾乳牛舎1棟、育成牛舎1棟で経産牛93頭、未経産牛52頭、計145頭を飼養しています。

牧場作業は、ご両親と克美さんの他、従業員1名と9月から技能実習生が1名入り、合計5名で運営されておられます。作業分担は、搾乳をご両親と従業員と克美さんが、TMR調整を従業員が、圃場管理はお父さんと克美さんが担当されています。克美さんは、作業全般に加え、育成・乾乳牛管理と堆肥管理を中心に担当されています。借地含め17町の自給飼料畑ではデントコーンとイタリアンに加え、WCSも作付されており。また、堆肥は堆肥舎で発酵させて自家使用に充てられています。

就農のきっかけを教えてください

私は就農する前は全酪連に6年間在籍し、粗飼料担当や兵庫県の購買推進担当などを務めていました。日々巡回する中で様々な酪農家さんの仕事ぶりや生活を見るにつけ、自分も地元根差す仕事が出来たいなという思いが強くなっていったある日、父が怪我をしましてしまった。このままだと近い将来酪農を廃業しなければならぬかもしれないという父の言葉を聞き、28歳のとき思い切って全酪連を退職し就農することを決意しました。



若手後継者の 本音

Vol.40



フリーストール牛舎



エサ寄せロボット



搾乳施設



バルクタンク



サイロタンク

【経営概況】

所 属 熊本県酪農業協同組合連合会(代表理事会長 隈部 洋)
 家族構成 克美さん、両親、姉、妹、弟、妻、子供3人
 飼養頭数 経産牛93頭、未經産牛52頭(子牛含む)

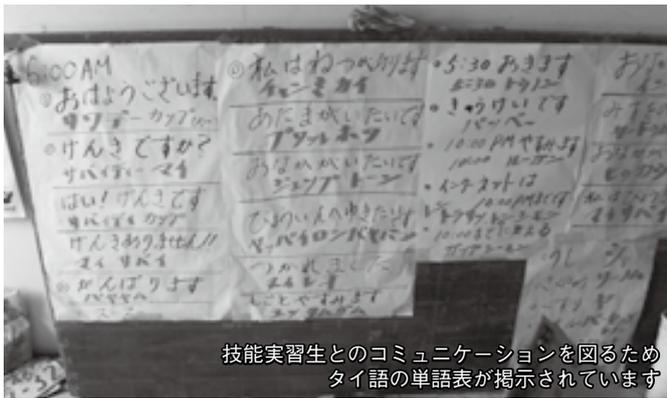
やはり人だな～

隣の酪農家の先輩に頼んで、牧場での作業や考え方を教えてもらうことができました。はじめは大変でしたが、多くの地域の方々に教えてもらい、何とか日々の仕事をこなしていけるようになることができました。

また、就農してから3年が経ち、ようやく自信がついてきた段階で規模拡大に着手することにしました。工事も無事に完了し、新しいフリーストール牛舎が稼働した初日に熊本地震の前震が起こりました。いままで経験したことが無い混乱のなかで、牛追いをし、新しい設備への対応など走りまわりました。その時期はともかく人手が必要でした。みなさん被災し余震が続く大変な中助けてもらいました。その時に感じた感謝の気持ちは忘れることは出来ません。これからも人と人の繋りをとても大切にしたいと考えています。

就農6年目に、畜産クラスター事業を利用して牛舎等を新設するなどの規模拡大を行いました。以前は40頭の繋ぎ牛舎でしたが、96ベッドのフリーストール牛舎になりました。飼養形態はもちろん搾乳機器もパイプラインからパーラーに変わり、牛はもちろん、人間も作業に慣れるまで時間がかかり、規模拡大当初は牛も人間も非常に苦労しました。それから3年半が経ちましたが、乳量も30kg/日を超えるところまで伸び、周産期疾病や分娩事故なども大幅に減りました。繁殖管理はいまでも試行錯誤の部分もありますが、後継牛の確保は順調に進んでいます。私の牧場のすぐ近くに全酪連の若齢預託牧場も新設されたので1年前からここに預託も始めました。省力化が進み飼養管理にもより時間を割けるように

就農してやりがいを感じていることは？



技能実習生とのコミュニケーションを図るため
タイ語の単語表が掲示されています



旧牛舎を改築した乾乳牛舎



哺育ロボットが導入された哺育牛舎



全国の若手後継者の皆さんへ一言!

自分の限界を知ること。頑張ることも大事ですが、任せられる仕事は人に任せ、自分にゆとりを持つことも大切にしてください。



稲やかで控えぬながらも芯が通った克美さん。取材者も全酪連の同僚でしたが大きく成長した姿に驚かされました。就農後に出会った奥様との間に昨年3人目のお子様生まれ益々お忙しい毎日になってしまったとのことですが、その表情はとても充実しているように見えました。株ながまつファームの今後益々のご発展を祈念いたします。

今後の目標について教えてください

なるなどプラスの効果が表示されています。今から預託牛の下牧が楽しみです。また、特に変わったこととはしていませんが、作業体系などを誰でも出来るようにすることが重要と考えています。地道な取り組みで実際に成果が出ていることが自分にとっては自信でありやりがいでもあります。そして、近隣には多くの酪農家がありますが、

同年代の後継者も多く研修会や交流会では周りに目標となる優秀な方も多く日々刺激を受けています。

また、今年の一月に牧場を法人化し、私自身が後継者から事業主という立場になりました。会社員のときには感じたことのない責任がありますが、毎日がとても充実していると感じています。

規模拡大して4年目ですが、まだまだ牛舎をフルに活用できていないと思いますので、現在の規模で乳量や繁殖、個体販売など伸ばしていきたい部分を確実に伸ばしていきたいと考えています。

そして、まだまだ夢の段階ですが、近い将来自分の牧場で絞った牛乳を加工、販売をしたいと考えています。そのためにも地域との連携を強く図り、持続可能な酪農経営を確立させる必要があると考えています。

また、酪農を始めてからというものの、休みがないのは当たり前で、休みを取るのとは何か用事

がある特別なときだけと考えていましたが、それだと常に忙しく気持ちに余裕もないと感じていました。これからは、ゆとりと余裕のある酪農を実現させることも大きな目標です。今年の9月から技能実習生の受け入れを開始しています。家族や従業員はもちろん、自分に対しても十分な休みが取れるように思っています。その一方で、しっかりと給料も出すため収益も上げなければなりません。このため経営者として仕事の効率化と、生産性の更なる向上は命題です。

見て歩紀

No. 317

佐藤牧場
山形県上市市

カマズ淡々と酪農経営

地域の紹介

今回訪問させていただいた佐藤牧場は、山形県酪農協同組合（山口長一代表理事組合長）に所属し、上市市に在ります。上市市は山形県の南東部に位置し、蔵王連峰でも樹氷やスキー場などで有名な山形蔵王の南部などを市域として、東側は宮城県に、北側は県都山形市に接しており、南側は高畠町、西側は南陽市に接しています。

市街地には「上山温泉」「葉山温泉」「上山城」などの有名観光スポットがあり、蔵王の冬のスキーなどと合わせて多くの観光客が訪れます。農業は、稲作をはじめ、さくらんぼ、ぶどう、ラ・フランスなどの果樹が盛んで、農業産出額は果樹が1位となっています。酪農家は大規模農場も含めて、市内に8戸あります。

佐藤牧場の概況

佐藤牧場は後継者の邦行さん、奥さんの康衣さん、そしてご両親の4人で作業をされています。5歳と3歳の娘さんがおられ、奥さんは育児



山形県上市市



▲ 佐藤邦行さん、康衣さんご夫妻



▲ 佐藤牧場遠景



▲ 搾乳牛舎内部

をしながらも貴重な牧場の戦力として第一線で乾草給与や搾乳作業を担っております。

飼養頭数は経産牛61頭、育成牛(子牛も含む)42頭、育成牛の内23頭は5月から10月まで季節放牧の上山市営芳刈放牧場に預けているとのことでした。

現在の牛舎は、平成10年度農業公社牧場設置事業を利用して、自宅そ

ばから水田地帯の真中に建設した60頭対尻式の繋ぎ牛舎です。また、2tのバルククレーラー、ユニットキャリヤー、自動離脱機能付きのパイプラインミルカー、バンククリーナー、牛床マット、ファンを導入、当時の先進設備を取り入れた牛舎でした。更に自己資金で自動給餌機、暑熱対策として細霧システム、ファン増設を行いました。

上山市は盆地状の一角で大変厳しい暑さ(35℃以上の猛暑日になる日も多く)になるため、ファンと細霧システムは牛の暑熱対策には効果的だったと話しておられました。

そして、平成11年の春に邦行さんが、北海道文理科短期大学酪農学科(後の酪農学園短期大)を卒業し、就農され、平成12年度4月には40頭の導入牛と旧牛舎から連れてきた約20頭の経産牛で搾乳を開始しました。

自給飼料生産の取組み

作付面積は約15ha、転作田がほとんどです。市街地の転作田(約8ha)は集約されており、作業効率は良い反面、牛舎から遠く離れており機械移動や住宅地に面しているため、作業には少々気を使います。牛舎周辺の転作田(約7ha)は小区画で点在しており、機械による作業効率は劣りますが、牛舎から近いため機械移動が容易です。最近では農地所有者の高齢化に伴い農地中間管理機構を通し、近隣の転作田は増える傾向にあるそうです。



▲ ロールパックサイレージ

以前、粗飼料は購入中心の飼料体系でしたが、約10年前のリーマンショックを機に飼料価格が高騰したため、購入から自給体系にシフトさせ、徐々にロール収穫機械などを導入して、自給飼料比率を高めていきました。

当初は単収を得るためにスーダンやソルゴーをロールベイラーで収穫する体系でしたが、震災以降、異常気象や転作田ゆえの排水の悪さ、収穫作業の重複、機械への負担が大きかったことから思うような成果が得られず、試行錯誤の結果、イタリオンと飼料用ヒエの二毛作を中心と



▲ 自動給餌機へ

し、スーダンも若干作付けする現在の体系に行き着きました。ほとんどをロールパックのサイレージに調製しているそうです。

他には購入乾草、稲WCSを給与されています。稲WCSは1・3ha分を山形県酪農協の提携しているコントラクター組織に作業してもらって購入すること、主に育成牛、乾乳牛に給与していることとでした。尚、濃厚飼料関係は20年来全酪連一筋で利用していただいております。

今年度はクラスタ事業でトラクター直装ベールカッター、グラブ付きホイールローダーを導入して更なる省力化を図りたいと話されておりました。

自家育成の取組み

佐藤牧場は、この5年間は搾乳後継牛を導入していないそうです。牛舎を新築して規模拡大し、平成12年に40頭を導入しそれ以降は、償還も含め資金繰りが大変で年々初妊牛相場が高騰しており、平成18年に40頭のフリーバーン育成牛舎を新築しました。

現状の平均飼養頭数は、経産牛60



▲ 育成牛舎

頭、子牛から初妊牛が約40頭で、牛舎規模から判断すれば十分な頭数です。邦行さんは今振り返ると、育成牛舎への投資が今の牧場経営にとって良い成果が得られたと感じております。

課題としては、生後6か月齢までの牛の発育が悪いので、基本に忠実な飼養管理を徹底し、初回受精の早期化を図っていききたいと考えられております。

上山市営芳刈放牧場に今年度は23頭預けていると前述しましたが、10月に下牧して来るとゴチャゴチャで

大変なんだと仰っておられ、嬉しい悲鳴のようにも聞こえました。

将来の佐藤牧場の戦力

奥さんの康衣さんは、山形県酪農協の酪農ヘルパーとして14年間勤められたそうです。当時、康衣さんの存在を邦行さんは知らず、当牧場にヘルパーとして派遣された康衣さんに出会い、周りの方の勧めと邦行さんの猛プッシュもあり、平成26年めでたくご結婚。実は後から知ったそうですが、康衣さんは邦行さんの酪農学園短期大学部の1学年下だったそうです。

康衣さんは2人の娘さんの育児の合間の乾草給餌や夕方の搾乳作業がメインですが、作業全般においてご主人をサポートしています。牛の観察力には定評があり、的確に報告してくれると、邦行さんも頼りにされています。子供さんが成長されるに連れて、ご主人と二人三脚、佐藤牧場の大きな戦力となれることは間違いないと思われれます。

力まず淡々と経営

邦行さんは、まだお若いですが、お話を伺っていて力みを感じません

でした。この背景には大きな負債がないことがあると思われれます。お話の中で、2003年(平成15年)から青色申告を自分で行っていますと言われました。両親がおられるのに、就農して3年目の20代前半で、佐藤牧場の経営数値を把握されたことになりません。就農して20年、時には償還の大変さも経験し、決算時の償還額が減っていくことを励みにこまめやっつてこれたと話しておりました。このように、自分が中心となってやっつてこられた自信が裏付けとなって、力まず淡々と経営されているという印象でした。

「若い後継者には早い段階から経営を見ること、自分の牧場の財務状況を把握すること、規模拡大は甘くないぞ」と邦行さんは仰います。

そんな邦行さんは、山形県酪農協青年部の副部長や、ヘルパー利用組合の役員、山形県酪農協内の実行組合(地域組合)の役員などに就いて活躍されています。酪農青年女性会議の行事にも参加していただいて、若い後継者の方をリードしていただきたいと願うところです。併せて、ご夫婦二人三脚で佐藤牧場がますます発展することを祈念申し上げます。

名古屋
支所発

酪農生産研究会獣医師部会 主催 「平成30年度通常総会及び令和元年度第1回研修会」を開催！

8月31日(土)に全酪連名古屋支所（愛知県名古屋市）において、酪農生産研究会獣医師部会（部会長 外山晴久氏）主催による「通常総会」が開催されました。獣医師部会は行政、農業共済組合、開業の獣医師が会員となって構成されている部会です。

今年度は役員改選が行われ、会長に五月女拓哉氏（知多大動物病院）、副会長に望月奈那子氏（愛知県農業共済）が選任されました。



▲ 五月女獣医師
新部会長就任挨拶



▲ 望月獣医師
開会挨拶



▲ 山本獣医師を講師に
迎えて研修会を開催

総会終了後は引き続き「令和元年度第1回研修会」を開催しました。「運動器疾患」と題して獣医師部会元部会長の山本幸夫氏（知多大動物病院）による講演が行われました。

出席した会員の方々からは様々な質問が出てとても活発な研修会となりました。

本日の研修会が会員の方々のお仕事に役立つ様願っております。（T.K）



◀ 研修会風景



通常総会風景 ▶

名古屋
支所発

愛知県・岐阜県・三重県 肥育牛飼養管理 指導巡回

名古屋支所では定期的に乳肉複合経営生産者、和牛繁殖生産者、肥育生産者など交雑種、和牛共に肉牛に対しての現地飼養管理サポート、研修会の開催などを行っています。

この度、全酪連酪農技術研究所 猪内所長を招聘して9月18日(水)愛知みなみ農業協同組合管内（愛知県

田原市）の乳肉複合経営生産者への現地巡回、19日(木)三重県内（三重県伊賀市）の「伊賀の里モクモク手づくりファーム 新規肥育事業」への現地巡回などを行いました。

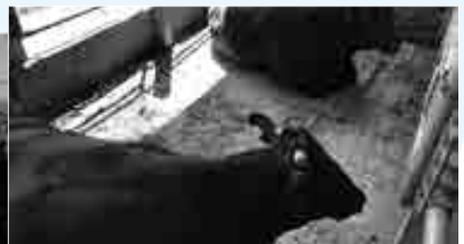
現場では飼養管理状況、施設管理などについて技術的立場からのサポートをさせて頂きました。（T.K）



▲ モクモクファームでの現地指導



▲ モクモクファームではジャージー牛の乳製品販売を行っています



▲ モクモクファームでは肥育試験を行っています

全酪連名古屋支所は酪農事業以外にも肥育事業も取り組んでいます。これからも関係機関と連携して酪農生産者、肥育生産者の皆様にとって有益な技術、情報を発信していきます。何か気になることがございましたら何なりと弊会名古屋支所もしくは推進スタッフへお声がけくださいませ。

福岡
支所発

熊本県酪連 赤チームが優勝!! 「第43回九州・沖縄地区酪農団体職員親善スポーツ大会」

9月7日(土)～9月8日(日)の2日間、福岡県朝倉市において第43回九州・沖縄地区酪農団体職員親善スポーツ大会が開催されました。



▲ 九州・沖縄団体協
限部長

この大会は「九州・沖縄地区の酪農団体職員の資質向上と親善ならびに団結を図る」ことを目的として毎年開催されております。

原鶴温泉泰泉閣で行われた恒例の前夜祭では、来賓として開催地福岡県農林水産部より永末畜産課長、全酪連から松達常任監事並びに大会役員を迎え盛大に開催されました。

九州・沖縄地区酪農団体協議会の隈部会長の主催者挨拶、来賓挨拶に続き、地元ふくおか県酪農業協同組合の尾形代表理事組合長による牛乳での乾杯で発声により、前夜祭は幕を開けました。188名の酪農関係団体職員が互いに交流を深め、笑顔あふれる楽しいひと時となりました。アトラクションでは、地元「筑水高校太鼓クラブ」の太



▲ 福岡県農林水産部
永末畜産課長



▲ 歓迎挨拶・乾杯音頭
ふくおか県酪
尾形組合長

鼓演奏が披露されました。高校生のキラキラな笑顔と若さ溢れる元気な演奏に皆くぎづけとなり、演奏が終わると「アンコール」の声が会場から沸き上がりました。その後続いて各団体別カラオケ大会で歌やダンスが披露され、会場は大いに盛り上がりました。

翌日は、場所を朝倉体育センターに移してミニバレーボール大会が開催されました。各チーム練習の成果を発揮し激闘を繰り広げ、会場は各チーム応援団の歓声、勝負がついたチームの一喜一憂の音が響いていました。決勝戦では熊本県酪連赤チームと鹿児島県酪白チームが対決し、熊本県酪連赤チームが優勝しました。

表彰式では熊本県酪連赤チームには大会会長賞・全酪連会長賞が、準優勝の鹿児島県酪白チームには中央酪農会議会長賞が、第3位の宮崎経済連白チームには九州酪農政治連盟協議会会長賞がそれぞれ授与されました。

最後に次回開催地、鹿児島県酪農業協同組合の橋口組合長が閉会の辞を述べ、来年の再会を約束し第43回大会の幕を閉じました。(M.Y)

大会結果

優 勝	熊本県酪農業協同組合連合会	赤チーム
準優勝	鹿児島県酪農業協同組合	白チーム
3 位	宮崎県経済農業協同組合連合会	白チーム



▲ 前夜祭
「筑水高校太鼓クラブ」の皆さん



▲ 優勝 熊本県酪連 赤チーム

北福岡
工場発

「ミルクフェア2019いわて」開催！

去る9月14日(土)～15日(日)の2日間、岩手県滝沢市、岩手県産業文化センターにおいて「ミルクフェア2019いわて」が開催されました。会場には約27,000名のお客様が訪れ、大盛況となりました。

当日は、各乳業メーカーとともに販売ブースを設置し、チーズ等の試食、販売を行いました。試食されたお客様からは「おいしい！」と温かい声が飛び交いました。特に「ぬるチーズ」は好評で、当日準備した数がまたたく間に完売するほどでした。

また併せて、「手作りバター教室」を開きました。



こちらは大変好評で、毎回定員に達するほどの人気で、参加されたお客様が一生懸命バターづくりに挑んでいる姿が印象的でした。(K.W)



▲ 販売ブースの風景



▲ バター教室の様子

酪農家経営管理支援システム(DMSシステム)

Dairy-farm Management Support System

SaaS

会計ソフト『e酪農経営』がインターネット上で使用できるようになり、
情報管理やQ&Aの効率が飛躍的に向上しました！

ぜひ、ご体験ください！

一歩先ゆく経営を。



未来を予測し対策を。

※全酪連酪農経営シミュレータ 操作画面

DMSシステムでは

①経営診断、②中期経営シミュレーション、③月次決算の支援を行っています。

全国酪農業協同組合連合会 購買生産指導部 酪農生産指導室 TEL 03 (5931) 8007

第12回 ALL JAPAN ナチュラルチーズコンテスト概要



本コンテストでは、国内のチーズ生産者から出品された約200種類の国産ナチュラルチーズを、各方面で活躍する審査員により公正に評価し、特に優良なチーズを選出・表彰します。そのうち、最終審査・表彰及び展示試食会を一般公開いたします。

展示試食会では、コンテストに出品されたすべてのチーズを、お酒と一緒に楽しみいただけます。

また、今回、審査員としてコンテストにご参加いただくLA BETTOLA da Ochiaiの落合務シェフ、TEAM NACSの森崎 博之さん、ローフードマイスターなどの資格をお持ちで、モデルとして活躍されているAYUMIさんらによるトークショーなどのイベントも開催いたしますので、ぜひご参加ください!

1. 開催趣旨

- (1) 日本人の嗜好にあったチーズの製造や、わが国の気候風土にあった独自のナチュラルチーズ文化を創造し、今後の生乳需要拡大を図る。
- (2) 国産ナチュラルチーズへの専門家によるアドバイスおよびユーザーからの意見等を聞く機会を設けることにより、国産ナチュラルチーズの製造技術向上を図る。
- (3) ユーザーへの国産ナチュラルチーズの紹介の場を設けることにより、販路拡大を図る。

2. 主催 (一社) 中央酪農会議

3. 後援

農林水産省、(独) 農畜産業振興機構、(公財) 日本乳業技術協会、(一社) 日本乳業協会、(一社) Jミルク、NPO法人チーズプロフェッショナル協会

4. 場所 東京プリンスホテル (〒105-8560 東京都港区芝公園 3-3-1)

5. 開催日時 (一般公開)

- 令和元年10月30日(水)
- ① 最終審査 表彰 14時40分～16時00分
- ② 展示試食会 16時00分～19時00分 ※一次審査～三次審査までは非公開

6. 部門

- ① フレッシュ
- ② パスタファイラータ
- ③ ソフト
- ④ 白カビ
- ⑤ ウォッシュ
- ⑥ 青カビ
- ⑦ シェーブル
- ⑧ ハード熟成3カ月未満
- ⑨ ハード熟成6カ月未満
- ⑩ ハード熟成6カ月以上
- ⑪ ホエイ
- ⑫ トライアル

7. 賞の種類

農林水産大臣賞、農畜産業振興機構理事長賞、中央酪農会議会長賞、審査員特別賞、金賞、優秀賞

“一般公開”の参加者募集について

■参加費 無料

■申込方法

★専用WEBサイトから
<https://ncc12.peatix.com>

★FAXまたはe-mailにて

●必要事項: ①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④TEL ⑤FAX ⑥メールアドレス ⑦職業・業種 (以下より選択 [酪農家・チーズ製造者、酪農関係団体、食品関係企業団体等、小売・流通関係企業団体等、一般企業、地方公共団体、教育関係企業団体等、学生、その他]) ⑧所属企業・団体名等

※複数で申込の場合は、氏名は全員分、その他は代表者の情報をご記入ください。



■申込締切 10月23日(水)

※先着順、定員に達した場合はその時点で締切とさせていただきます。
※FAXまたはe-mailにてお申込みいただいた方は、後日、担当から受付完了のご連絡をさせていただきます。

■問い合わせ・FAXまたはe-mailでの申込先

「第12回 ALL JAPAN ナチュラルチーズコンテスト」事務局
株式会社ボール内 担当者: 岡田・郷

★ TEL : 03-5362-0684 (電話対応時間: 平日 10:00-18:00)

★ FAX : 03-5362-0656

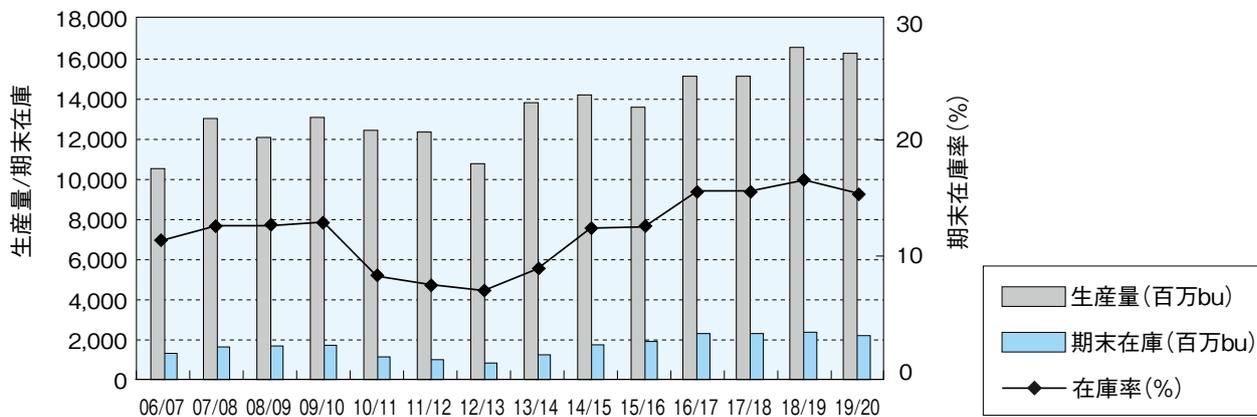
★ e-mail : aj-ncc@ball-inc.co.jp

詳細は、中央酪農会議 HP 掲載の開催案内をご確認ください。<https://www.dairy.co.jp/cheesecontes/index.html>

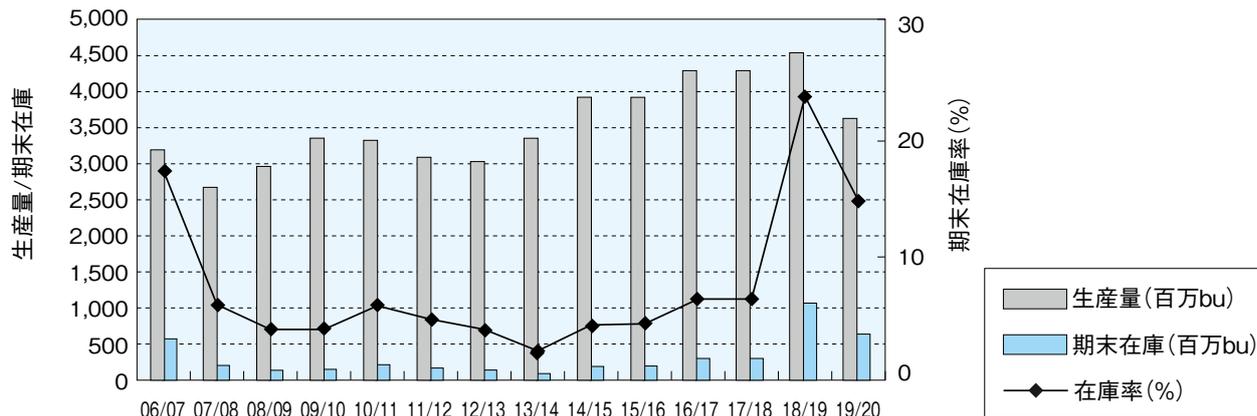


		18/19年産	19/20年産
9月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積 (百万エーカー)	89.1	90.0
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	176.4	168.2
	生 産 量 (ブッシェル)	165 億9,000万	162 億9,500万
	需 要 量 (ブッシェル)	142 億3,000万	141 億500万
	期末在庫 (ブッシェル)	23 億6,000万	21 億9,000万
	在 庫 率	16.6%	15.5%
	トウモロコシ 相場動向	シカゴ相場は、7月下旬から生育に適した天候により軟化傾向が続いていたが、9/12 USDA 需給報告では、大豆の値上げに引っ張られる形で値を上げた。その後も石油関連施設の攻撃による原油急騰なども影響し、需給報告とは逆行する値動きを見せている。	
大豆粕相場動向	混迷する米中貿易摩擦の中、中国において軟調に推移する米国産大豆の調達コストに割安感が出てきたことと、トランプ大統領に対し歩み寄りのアピールを狙い米国産大豆の大量買い付けを再開したことを受けシカゴ相場は大幅に上昇し、併せて為替も円安基調になっていることから大豆粕相場は強含みの状況となった。		
槽糖類	【一般フスマ】 製粉メーカーの小麦挽砕量は引き続き前年対比減少傾向にあり、ふすまの需給は年末年始に向けて徐々に逼迫する見込みであるものの、小麦価格が安定的に推移しているためふすま相場も据置きの見通し。		
	【グルテンフィード】 長梅雨の影響で異性化糖販売が低調のため、年末年始にかけて国産は非常に逼迫する見込み。併せて中国産も強含みで推移しており相場は全体的に堅調に推移している。		
海上運賃	8-9月は総じて堅調に推移し、サウジアラビア石油設備へのテロ攻撃により急騰。復旧には想定以上に時間がかかる可能性が示唆されており、原油価格急騰及びリスクプレミアムを織り込み、海上運賃も例外なく上昇している。SOX規制プレミアムと豪州/東南アジア出し中国向けの鉄鉱石/石炭の堅調な荷動きに加え、南米出し穀物荷動きも強材料として作用している。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和元年 9 月

北米コンテナ船 フレート	2020年1月から重油に含まれる硫黄に対する環境規制が始まり、多くの船社で10月からLow Sulphur Compliance Charge (LSFCC) が導入されます。低硫黄燃料は通常使われているC重油に比べ価格は高く、スクラパー（硫黄除去装置）を搭載している船はまだ少ないのが現状です。この装置を導入するにあたり初期投資に莫大な費用が必要となえ、設置に約2か月かかるこのことで運行できない間の費用やメンテナンスに必要な費用、また10年ほどで交換が必要のため再投資が必要と言われていす。このため、これら一連のコスト増加分をチャージとして荷主へ転嫁することは避けられない状況と言えます。
ビートパルプ	【米国产】 主産地の一つミシガン州東部では、降雨と乾燥が繰り返される不安定な天候により、単収の減少が懸念されています。新穀の収穫は9月上中旬まで遅れており昨年に比べ2～3週間遅れています。収穫面積は昨年比やや減少しています。日本向け主産地のミネソタ州及びノースダコタ州では、地域によって天候パターンが異なり、生育状況も多様です。単収については過去5年の平均とほぼ変わらないと予想されています。収穫面積は昨年比やや増加しています。新穀の価格は、米国内の旧穀在庫が限られていること、一部地域での作柄不良の懸念、穀物相場の堅調さ、米国内外における流通費の上昇などに加え、国際的なビートパルプの需給逼迫も懸念されることから、昨年比高値で推移しています。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地コロンビアベースンでは、3番刈がほぼ終了しています。8月中旬から天候不順が続く多くの地域で降雨が観測され、一部の生産者では収穫作業に遅れや雨当たりの被害がでました。3番刈全体で約40%が降雨による被害を受けているとの情報もあります。今年は1番刈から3番刈まで、色が鮮やかな緑色で葉付きが良く、且つ高成分のアルファルファの発生は限定的でした。このため、今後の産地相場は上級品と低級品の価格差が開いていくと予想されます。雨当たり品のような低級品は、今後米国内肥育向け中心に供給される見込みで、相場の底値を下支えする展開になりそうです。
	【オレゴン州】 オレゴン州南部クラマスフォールズでは2番刈が終了し、現在3番刈の収穫が始まっています。2番刈は多くの圃場で早刈りされており、1番刈と同様に収量が低い傾向にあります。また、降雨による被害は大きく出なかったものの8月中下旬から夜露が発生する日が多かったため、その時期に収穫されたものには、ブリーチ（変色）が例年よりも多く入っている傾向にあります。2番刈の産地相場は昨年同時期とほぼ同レベルで1番刈よりもやや軟化しています。今後、成分が良化する3番刈は国内外からの需要も強まることから、1番刈と同様の価格に反発すると予想されています。オレゴン州中部クリスマスバレーでも2番刈は終了しています。早い圃場では3番刈が開始されていますが、収穫が本格化するのは9月中旬ごろの見込みです。2番刈は一部で降雨の被害もあったため、地域や圃場によって品質にばらつきが出ているようです。同地域では国内外からの需要が集まっており、一部のサプライヤーでは高値でも買い付けしているため引き続き現地価格は高値で取引されています。
	【カリフォルニア州】 南部インベリアルバレーでは、6番刈が進行中です。例年この時期は高温多湿な天候が続くためブリーチ（変色）や雑草の混入が多く見られます。また過乾燥気味に仕上がる傾向があり、成分も低い傾向にあることから、輸出に向かない品質となります。このため新穀当初よりも産地相場は落ち着きを取り戻していますが、日本向けの中級品以上の品質の相場は引き続き堅調に推移しています。
チモシー	【米国产】 主産地のコロンビアベースン及びエレンズバーグでは2番刈が終盤を迎えています。コロンビアベースンの2番刈チモシーは、約25%が降雨によるダメージを受けたと言われていす。エレンズバーグでは8月下旬に発生したストームの影響で収穫作業が遅れていましたが、降雨による被害を受けた圃場は限定的なようです。産地価格は昨年同時期に比べるとやや弱含みで推移しています。
	【カナダ産】 アルバータ州南部レスブリッジ地区では1番刈の収穫作業は終了し、現在2番刈の収穫が進行中です。収穫期に一部で降雨の影響を受けましたが、その影響は軽微であり、概ね80%以上が中級品以上となっています。アルバータ州中部クレモナ地区でも、7月下旬よりチモシーの収穫作業が始まっており、現在は終盤を迎えています。収穫期前半は降雨も少なく、良好な収穫環境で推移しています。昨年は早刈りに見舞われ、収量は例年の半分程度となりましたが今年は生育期に十分な降雨もあり、生産面で水が不足することはありませんでした。このため、既に収穫を終えたものほとんどは中級品以上となっています。産地相場については米国产チモシー相場の軟化とカナダ国内の自給粗飼料の状況も改善されたことから軟化傾向にはありますが、各サプライヤーはまだ積極的な買付は行っておらず、完全に相場が確立するにはもう少し時間が必要となりそうです。
スーダングラス	19年産のスーダンの収穫は2番刈が進行中です。8月15日時点の作付面積は前年同期比91%の26,320エーカーとなっており、産地相場軟化の影響から例年よりも1番刈でスーダンの生産を中止した生産農家が多かったことが示唆されます。今夏は産地で湿度が出始めたのが7月下旬と例年よりも遅く、その結果色が緑目のスーダンの発生割合が増え、いわゆる色抜け品は例年より少なくなっています。産地相場については、チモシー相場の軟化を受け、昨年同時期に比べ弱含みで推移しています。しかしながら、発生量が限られる茎細の色抜け品および産地周辺の肥育牛からの旺盛な需要がある低級品の相場は強含みで推移しています。
クレイグラス	クレインは全酪連の登録商標です。 産地インベリアルバレーでは3番刈の収穫作業が終了し、4番刈の収穫作業が進行中です。これまでのところ天候に恵まれ、例年と比較し湿度も高くないことから、高温の環境下でありながらも引き続き色目良く仕上がっている圃場が多いようです。日本および韓国からの需要は旺盛な状況が続いており、産地相場については大きな変動なく堅調に推移しています。
ストロー類	主産地のオレゴン州ウィラメットバレーでは各種ストローの収穫はほぼ終了しています。アニュアルライグラスは6月中下旬から収穫を開始、フェスクストローは7月上旬から収穫を開始しましたが、7月は多くの降雨があり、雨当たりの被害を受けている圃場があります。ペレニアルライグラスは降雨により収穫作業が遅れ、結果全ての収穫が終了したのは8月下旬となりました。今年は収穫期に断続的な降雨が発生しており良品の発生は限定的となっているようです。
オーツハイ	【蒙州産】 西蒙州では、降水量は例年よりも少ないものの、これまでのところオーツの生育は順調で今後の予報でも定期的な降雨が予想されていることから、例年並みの収量が期待されています。南蒙州では、昨年同様、例年よりも降水量が低い状況が続いており、2年連続で早刈り傾向にあります。今後の予報でも好天が続く見込みとなっており、この状況が続いた場合、収量は例年の75%程度になるものと予想されています。東蒙州では産地のなかでも地域によって降水量に差があり、生育に及ぼす影響もまちまちです。播種時期の前半に播種した圃場の生育は良好で、例年並みかそれ以上の収量が期待されますが、後半に播種した圃場では生育期に降雨が不足したことから生育状況も芳しくなく、今後さらなる降雨が待たれるところです。東蒙州の産地周辺では不足する放牧草の代替飼料として引き続きオーツハイの需要は旺盛です。このため、産地相場については高止まりしたまま推移しています。

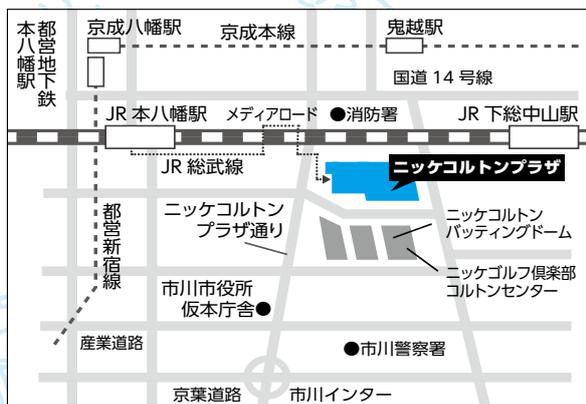
全酪連は、全国酪農青年女性会議協力のもと

10月25日(金) 午後2時より

「ニッケコルトンプラザ タワーコート(センターモール2F)」にて

酪農業に対する理解を 深めてもらうべく、PRイベント活動を行います!

全酪連では、酪農が日本人の栄養摂取や、社会的に様々な役割を担っている事について消費者の方へ訴えると共に、安全・安心の国産牛乳を飲んで酪農家を応援していただくため、PRツール(コットンランチバッグ・チラシ)をイベントスペースにて配布し、PR活動を行います。



場所

ニッケコルトンプラザ タワーコート(センターモール2F)
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1丁目1番1号
☎047-378-3551

会場までのアクセス

- JR総武線 / 都営新宿線「本八幡駅」より徒歩10分
JR本八幡駅北口より無料シャトルバス運行

今年は
コットンランチバッグを
配布します!

オリジナル
デザイン

ご来場をお待ち
しております!

全酪連は、今後も消費者の皆様により日本の酪農をより知ってもらい、
国産牛乳、乳製品の消費定着化に向けた取り組みを行って参ります。

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	40~45	→	札幌管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で107.8%、累計で97.4%、苫小牧管内月計で113.4%、累計で98.1%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12~1月分娩予定、F1及び雌雄選別腹がメインで動くものと思われれます。9月の同地域の乳牛市場はやや弱含みの相場展開をみせましたが、庭先購買で選ぶ中クラス以上の初妊牛は前月の予測と同様の72~80万円の価格となると思われれます。雌雄選別腹や高能力牛も出てくる地域ですが、出回り頭数は少な目ですので、お早目のお問い合わせをお願いします。
	初妊牛	72~80	→	
	経産牛	50~60	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	40~50	↓	根釧管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で114.5%、累計で100.3%、中標津管内月計で120.7%、累計で102.8%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月~1月分娩が中心となります。8月の管内乳牛市場平均では一旦、落ち着きを見せましたが、上・中クラスは堅調な動きを見せていることから、庭先購買価格は横這いとなること予想されます。資源状況については、例年並みの頭数は確保できる状況となっておりますが、一部、道内外の規模拡大等の導入の動きが続いていることから、相場が急騰すること考えられます。F1・雌雄選別腹は横這い、和牛受精卵移植腹はやや弱含みで推移するものと思われれます。
	初妊牛	77~87	→	
	経産牛	50~60	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	40~50	⇐	帯広管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で111.3%、累計で103.9%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月~1月分娩が中心となります。F1腹がメインですが、雌雄選別精液授精腹も十分に確保できるものと思われれます。当管内地域の乳牛市場は9月に月2回開催されており、初妊牛平均価格は税抜き72万円程度となっておりますが、中、上物クラスは高値で取引されており、庭先購買も市場平均よりは上の相場となります。出回り頭数は多くなっており、10月も相場は横這いに推移するものと思われれます。
	初妊牛	77~87	→	
	経産牛	55~62	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	43~53	→	道北管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で107.9%、累計で99.4%、北見管内では月計で106.9%、累計で101.7%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月~1月分娩の腹が中心となります。道内外共に導入が活発になり始めており初妊牛相場はF1・雌雄選別腹問わず、価格は横這いで推移すると思われれます。搾乳頭数確保の影響で経産牛の道内需要も堅調であり、相場も横這いから、やや強含みで動くものと思われれます。資源状況については、例年並みに推移すると思われれます。
	初妊牛	72~82	→	
	経産牛	48~55	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	40~50	⇐	道内の9月中旬までの生乳生産量前年比は昨年のブラックアウトの影響で単月112.6%、累計で102.0%の実績となっております。一部地域ではデントコーンの収穫作業が順調に始まっている様子で、収量・品質を期待したいところです。10月の初妊牛動向といたしまして、12月~1月分娩が中心となります。8月~9月相場は一旦落ち着きを見せましたが、道内外での大型牧場の購買が今後増加する予想である一方、道内の初妊牛資源は豊富である事などから非常に予測しにくい相場となっております。弊社としましては、相場に注視しながら、上・中クラス中心に安定した庭先購買で、ご希望に添える初妊牛を導入していきますので導入計画等ございましたらお早目のご注文を宜しくお願い致します。
	初妊牛	77~87	→	
	経産牛	50~60	→	

今月の表紙

今月の表紙は、「第10回酪農いきいきフォトコンテスト」(第48回全国大会にて開催)で応募頂いた作品「同じポーズで休憩」(栃木県小森美佳氏 撮影)です。



編集後記

- 残暑もだいぶ和らぎ、過ごしやすくなってきました。街はすっかり秋の色です。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和元年10月10日発行(毎月1回10日発行)

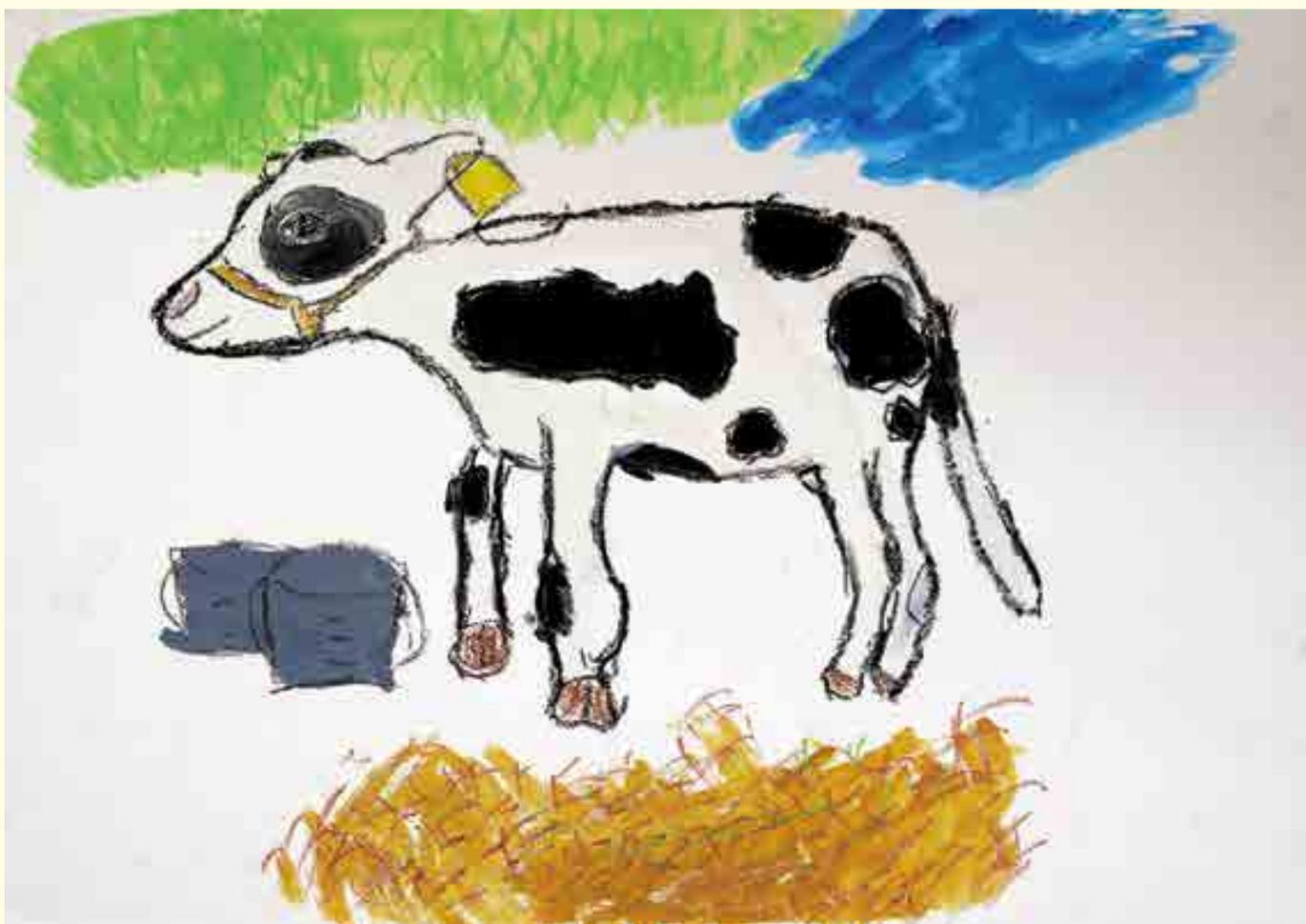
全酪連会報 10月号 No.649

- 編集・発行人 戸辺誠司
- 発行 全国酪農業協同組合連合会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー 入賞作品紹介



牛

岡崎市立豊富小学校(中部)3年 鈴木 深友

今月の入賞作品は…

岡崎市立豊富小学校(中部)3年の鈴木 深友さんの作品です。

かわいらしい子牛さんをよく観察して、そのあどけなさをクレヨンと水彩絵具を使って、上手に描いています。バケツや干草、草原、空をバランス良く配置して子牛さんの周りの雰囲気を作り上げています。画面上の余白も美しくセンスの光る作品です。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第46回らくのうこどもギャラリー」で全国683点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議